



2013. 8月発行 No.73

東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター

〒018-3201

秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添 24-3

Tel 0185-79-1003 Fax 0185-79-1005

eメールアドレス t-fujisato@rinya.maff.go.jp

天然秋田スギの巨木に歓声

6月28日ニツ井町仁鮎にある銀杏山神社、仁鮎水沢スギ植物群落保護林にて、自然と人間との共生をテーマとして、鷹巣東小学校5年生11人、6年生17人を対象に森林教室を実施しました。はじめに銀杏山神社にて銀杏の木を見学しました。銀杏木は樹高25メートル、根回り9メートルもの巨木で県の天然記念物に指定されており、その昔大和朝廷時代(658年)に阿部比羅夫(あべのひらふ)が東征した際、勝利祈願のため神社を建立し、その時に銀杏の種を撒いたと伝えられています。伝承どおりであれば1355歳という途方もない年月を生きてきたことになり、児童達はその大きさと途方もない年月に驚いていました。また、「息を止めて木の回りを三回まわると願いが叶う」という願掛け方法を聞くと一生懸命木の回りをかけていました。次に仁鮎水沢スギ植物群落保護林へと移動し、日本一高い「天然秋田杉」を観察しました。見上げて先が見えないほどの杉の巨木に、児童達は歓声を上げていました。また、配布した資料の中からウリノキやトチノキなど同じ植物を見つけては「や



身を乗り出してスギにふれる児童達

った!」「どこにあるんだ!」と声をあげ、森の中を思いおもいに楽しんでいる様子が見られました。日本一の天然秋田杉の前では木に直接ふれ、長生きの御利益がありそうだと大いに盛り上がっていました。最後に児童達からは「色々な植物が見られて良かった」「日本一の秋田杉が見られて良かった」「今度も又訪れてもっと自然を学習してみたいと思いました」などの感想が寄せられ、今年度初めての森林教室を終えました。

西目屋ニツ井線通行止め

岳岱自然観察教育林や黒石沢登山口などへのアクセス道となっている県道や林道が、8月9日の大雨による被害のため通行不能となりました。県道西目屋ニツ井線では第一ゲートより青森県県境にかけ56箇所の崩落などが確認され、県道より分岐する黒石林道でも道路の一部がほとんど崩れる被害が確認されました。被害が広範囲にわたり、多数確認されたことから今年度中の復旧は困難な状況にあります。また、素波里園地から小岳に向かう大滝林道でも土砂崩れなどが発生し、通行不能となっています。藤里駒ヶ岳(樺岱コース)へのアクセス道となっている粕毛・樺岱林道は路面の洗掘があるものの通行可能となっています。

った!」「どこにあるんだ!」と声をあげ、森の中を思いおもいに楽しんでいる様子が見られました。日本一の天然秋田杉の前では木に直接ふれ、長生きの御利益がありそうだと大いに盛り上がっていました。最後に児童達からは「色々な植物が見られて良かった」「日本一の秋田杉が見られて良かった」「今度も又訪れてもっと自然を学習してみたいと思いました」などの感想が寄せられ、今年度初めての森林教室を終えました。

野営跡に多数の放置物

白神山地世界遺産地域連絡会議主催の合同パトロールが8月3日（土）に遺産地域巡視員、国、県及び町の行政関係者などが参加して行われました。今回の合同パトロールには、白神山地世界遺産登録20周年を記念して、一日ボランティア巡視員に応募された方も参加されました。秋田県側のパトロールコースは、粕毛側源流部の本流と一ノ又沢、ニツ森の3コースで行われ、一日ボランティア巡視員はニツ森コースに参加しました。ニツ森コースでは、八峰町ぶなっこだらで1日ボランティア巡視員の任

命式を行った後、東北森林管理局計画課長から「日頃の巡視活動の取組にご協力いただき感謝申し上げます。本日の巡視活動では、くれぐれも事故、怪我のないようにお願いします」との挨拶の後、ニツ森登山口に向かいました。登山口では、登山者にマナー啓発用パンフレットを配布したり、登山靴の泥落としマットの交換、オオバコの繁殖状況を確認しました。その後、ニツ森山頂までの巡視を行い途中、出会った登山者にマナー啓発用パンフレットを配布しました。巡視終了後、巡視活動について意見交換を行い「登山道に笹が倒れてきて、その脇を通る迂回道ができていて、笹を刈り払うとよい」、「登山道の土が洗掘され、段差が大きくなり歩きづらい」などの意見が出されました。



放置されていた野営道具一式

お知らせ

第二回イベント「初秋の白神山地での小岳登山」小岳へのアクセスが出来ないため藤里駒ヶ岳登山（樺袋コース）へと変更します。

第三回イベント「白神山地での紅葉狩り」太良峡へのアクセスが出来ないため開催場所の変更を予定しています。



登山者へマナーパンフレットを配布

一方、粕毛川源流部コースでは、粕毛川本流を上る本流コースと粕毛川を下り一ノ又沢を巡るコースとに分かれて巡視を行いました。本流コースでは、東の又沢から上善助沢合流地点周辺までパトロールしましたが、植物の盗掘、ゴミの投棄などのマナー違反となるような行為は見つかりませんでした。一ノ又沢コースでは、東の又沢から一ノ又沢カロフ沢合流部までパトロールを行い、野営したと思われる箇所を2箇所見つけました。ブルーシート、テント、寝袋、食料品、ガス缶、瓶、調理道具一式が放置されており、参加者で拾い集めて下山しました。下山後の意見交換では、「未だにマナーを守らずに入山している者がいるので、今後も巡視を続けていく必要がある」などの意見が出されました。今後も定期的な巡視と登山者へのマナー啓発を続けていく必要性を感じました。